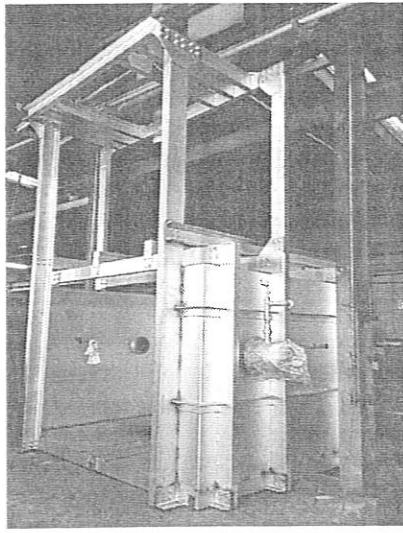


平成27年(2015年)8月14日 (金曜日)

三芳合金 鍛造用加熱炉を増設

銅合金製品 納期対応力を強化



大和合金(本社・東
京都板橋区、社長・萩
野源次郎氏)グループ工業(本社・埼玉県三

芳町)では来月をめぐり、鍛造用加熱炉を増設する。自動車や半導体、航空機関連の需要が堅調な中、納期対応を強化。競争力を高めて受注拡大を狙う。鍛造用の加熱炉は5基体制となる。投資金額は数千円。

同社では現在、生産が繁忙。自動車関連では海外向けの溶接電極材が増加し、半導体関連では半導体製造装置向けの部材が堅調。航空機関連では離着陸ギア用の鍛造部品が増えている。

このため操業度が高まって、高い納期対応力を発揮するため、設備投資を決めた。これまで鍛造ハンマー4基に対して加熱炉4基

体制で操業。今回の炉の増設で加熱待ちの時間が短縮される。生産能力や生産可能なサイズは従来通り。

三芳町の本社工場では現在、握え付け作業を行っている段階。写真で、来月には稼働させた。大和合金の萩野社長は「今回の投資で生産効率を高

め、納期面などで顧客満足度のアップにつなげられれば」と期待している。